

平成 29 年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委 員 会 名	広報広聴委員会
参 加 委 員	◎松山賢太郎 ○松井幸夫 林 和明 山田英喜 成瀬 拓 松尾 卓 小坂井二郎 金子和夫 原 栄一

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

議会報告会を継続開催するにあたり、参加者数の減少が懸念されていることや、市民にとって分かりやすい議会だよりを発行することが課題である。

静岡県菊川市では、議会報告会は毎年安定した参加者数を維持し、また市民に分かりやすい広報紙として議会だよりをリニューアルしたことなどから、それぞれの取り組みを視察し今後の参考としたい。

2 実施概要

実 施 日 時	視 察 先	静岡県菊川市
平成 29 年 5 月 16 日 (火) 14 時 00 分～16 時 00 分	担当部局	菊川市議会事務局
視察事業名	議会報告会及び議会広報紙について	
報 告 内 容	1 視察先の概要 菊川市は、静岡県の中西部に位置する人口 47,877 人の都市で、製造品出荷額第 1 位が輸送で 23.7%、第 2 位が電機で 17%、第 3 位が生産で 14.3%と上位 3 種で 55%となり、中京圏と関東圏の中間に位置し、近隣に新幹線の駅や東名高速菊川 I C もあることから、交通の要所として恵まれた立地を生かした都市である。 2 視察先の特徴 議会報告会の参加者は年平均 400 人以上を維持し、開催会場は平成 27 年度までは 11 カ所であったところを平成 28 年度はさらに 1 カ所増設した。さらに、昨年度は 20 歳以上の市民 2,000 人を対象に、「市議会の活動に関する市民アンケート」を実施し、議会報告会の周知と改善の努力をしている。 議会広報については、平成 26 年に先進自治体の広報紙を入手し市の議会広報紙とあわせて市民に見ていただき、大幅な改善を行った。 3 視察事項について (1) 議会報告会について 議会報告会では、パワーポイントを使っていて来場者の目線が紙	

	ベースの資料だけに行かないよう工夫をしている。事前の準備はパワーポイントに慣れない議員には大変だが、幸いパソコン操作に詳しい議員がいたこともあり、操作に慣れる時間は必要だが大きな改善になった。 (2) 議会広報紙について 平成 26 年に先進地視察としてあきる野市（東京都）を視察し、平成 27 年 7 月 1 日から 7 月 21 日まで市役所ロビーにて議会だよりに関する市民アンケートを実施して、調査結果をもとに平成 28 年 5 月号から紙面をリニューアルした。  リニューアルされた議会広報紙
考 察 (まとめ:今後の活動に活かせると思われる事項等)	議会報告会に参加された方を対象に実施したアンケート調査によると、開催を知った方法は、「自治会の回覧」（約 30%）、「自治会等の会議」（約 44%）と自治会活動が大きく影響していることから上田市でも取り入れる必要性を感じた。また、報告会ではパワーポイントを活用していたが、上田市で導入するには、日ごろから各委員が報告したい情報と説明用の写真やグラフ等の準備に心掛ける必要があると感じた。 議会広報紙について、菊川市の議会広報紙を見て感じたことは、上田市のものと比べて紙面の余白が多く、上田市の議会広報紙では、余白部分を無くそうと、質疑応答部分の規定文字数の上限まで使おうと苦心していることから菊川市の紙面には衝撃を受けた。このことは伝える側が伝えたいことと、市民が読んで感じることにギャップがあるのだろうと考えられる。今後は、「市民の声」をよく聞いて、「どんなことを知りたいのか」、「どんな事に関心を寄せているか」に注意を払って、より多くの市民に読んでもらえる議会広報紙を作る必要性を感じた。 

※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

平成 29 年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委 員 会 名	広報広聴委員会
参 加 委 員	◎松山賢太郎 ○松井幸夫 林 和明 山田英喜 成瀬 拓 松尾 卓 小坂井二郎 金子和夫 原 栄一

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

当市で毎年実施している議会報告会について、年々マンネリ化等による参加者減少の傾向である。

広島県福山市では、昨年 11 月に 7 カ所の開催会場において計 8 回の開催で合計 700 人を超える大勢の市民が参加したことで全国的に注目を集めていることから、報告会実施における手法等を視察し今後の参考としたい。

2 実施概要

実 施 日 時	視 察 先	広島県福山市
平成 29 年 5 月 17 日 (水) 13 時 30 分～15 時 00 分	担当部局	福山市議会事務局
視察事業名	議会報告会の取り組みについて	
報 告 内 容	1 視察先の概要 福山市は、瀬戸内海のほぼ中央、広島県の東南端に位置する都市である。(人口 469,499 人、世帯数 204,831 世帯、面積 518.14 km²。) 1619 年、徳川譜代の水野勝成が 10 万石の領主として福山城を築き、以後、大規模製鉄所の立地、臨海工業都市として発展。市政 100 周年である 2016 年を機に「100 万本のぼらのまち」を目指す。 観光としては、福山城をはじめ、潮待ちの港「艀の浦」、弁天島、仙酔島と穏やかな海と緑の島々が織り成す風景美が有名である。 2 視察先の特徴 上田市の約 3 倍の人口を擁し、「人口減少社会への対応」や「連携中枢都市を核とする新たな広域連携」、「協働の更なる深化」、「いつまでも健康に過ごせるまち」、市民全員参加のもと新たな「世界に誇れる『ぼらのまち福山』の実現」を目指す。また、次代を担う人づくりや地域資源を最大限に活かしたまちづくりを力強く進める。 3 視察事項について 昨年、11 月 14 日 (月) から 11 月 25 日 (金) の間に行われた議会報告会の中で、4 班体制で各班 2 会場を担当し総勢 730 人の参加者が	

あった。議会報告会開催について、市民への周知方法はどのように行っているのか、また、自治会や関係団体への参加の働きかけ、議員の対応や委員会の関わり等について視察を行った。

【報告会の構成等について】

- ・議員 40 名のうち、議長を除いた 39 人を 4 班に分け、各班 2 会場を担当する。
- ・会場は、市役所・市民センター・交流センター・文化会館を使用。
- ・開催地区を 8 ブロックに分け、そのうち 3 カ所の参加者が 163 人、128 人、102 人と 100 人を超えた。
- ・参加者 730 人に対し行ったアンケートについて、回収率が 95.8% と非常に高い。

【アンケートの回答内容について】

- ・報告会に初めて参加した人が 35.8%、「参加してよかった」(73.4%)、「報告の内容がわかりやすい」(55.2%) と高い評価があった。
- ・参加者の年齢層について、60 歳代、70 歳代、50 歳代の順に多く、40 歳代までの参加者数は 42 人と少ない。また、男女比では男性の参加者が 87.4% を占めた。
- ・議会報告会を何で知ったかという問いに対しては、「自治会の回覧」、「市議会だより」、「市の広報」、「友人・知人」の順であった。

【市民への周知方法について】

「市の広報」、「各自治会・自治センターや拠点施設へのチラシの配布」、「関係団体等への参加要望」など上田市とほぼ同様であるが、各委員会の正副委員長が率先して自治会や関係団体等へ参加の呼びかけをしている。



考 察 (まとめ:今後の活動に活かせると思われる事項等)	今回の視察から今後の活動に活かせると思われることは、議会報告会の周知方法として上田市とほぼ同様であったが、若年層と女性の参加拡大を図るために市内の大学へのチラシ配布や参加の呼び掛け、PTA、連合婦人会への働きかけを進めることが挙げられる。 また、報告会の進行については、パワーポイントを使用するなど、参加者に分かりやすい内容や資料の作成が必要である。 上田市では、議会報告会のほかに各常任委員会が行うテーマ別車座集会は参加者が多く、若者や女性も見られる。市民に関心のあるテーマが設定されていることから、市民にとって参加しやすく、意見も多く聞けることから、今後も開催を継続していく方向がよいと思われる。 
--	--

※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

平成29年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委 員 会 名	広報広聴委員会
参 加 委 員	◎松山賢太郎 ○松井幸夫 林 和明 山田英喜 成瀬 拓 松尾 卓 小坂井二郎 金子和夫 原 栄一

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

合併から10年が経過し、地方分権時代にふさわしい改革と活性化を図るための議会改革が必要であることから、他市の事例を参考に上田市議会改革に役立てるとともに、市民に分かりやすい議会だより、親しみやすい議会だより、読んでもらえる議会だよりの紙面づくりを学び、市民の声が届く議会を目指し、今後の議会改革の参考とする。

2 実施概要

実 施 日 時	視 察 先	愛知県北名古屋市
平成29年5月18日(木) 10時30分～12時00分	担当部局	北名古屋市議会事務局
視察事業名	議会改革の取り組み及び広報紙を活用した広報戦略について	
報 告 内 容	1 視察先の概要 愛知県の北西部に位置し、温暖な気候と木曾川・庄内川などの沖積地に発達した生産性の高い肥沃な土壤に恵まれ、農業を中心に発展。名古屋大都市圏のベッドタウンとして人口が急増。平成18年3月に師勝町と西春町が合併。名古屋市の都心部から10km圏内、鉄道や幹線道路が充実し名古屋都心部へのアクセスが極めて良好。 2 視察先の特徴 旧二町の議員が大半を占める議会構成で、互いにそれぞれ旧町の異なる議会運営方針を主張、議会運営に困難を極めていたことから、一部の議員有志により議員相互間の共通認識と理解を深め、議会運営の最高規範としての位置づけとして議会基本条例を制定するなどの取り組みが始まった。 3 視察事項について (1) 議会改革について 議会改革推進協議会 平成18年 3月20日 北名古屋市誕生 8月～ 議会基本条例の素案作成 11月～ 各会派における検討	

平成 19 年 3 月 1 日 議員研修会の開催
 3 月 22 日 議員研修会の開催
 4 月 12 日 議会改革推進協議会の設置（全議員）
 9 月 28 日 議会改革推進部会の設置（会派代表）
 12 月 21 日 議会基本条例の上程・可決

議会改革推進協議会の主な取り組み実績

- ・議会基本条例設定（平成 19 年 12 月 21 日 制定）
- ・市議会モニター制度実施（平成 20 年 7 月 1 日 制定）
- ・災害時における議会对応
- ・議員の研修に関する条例制定
- ・議会報告会開催
- ・議会インターネット録画中継導入
- ・一般質問における対面方式実施
- ・政務活動費運用指針策定
- ・常任委員会及び特別委員会の資料の貸し出し
- ・予算特別委員会及び決算特別委員会の常任委員会化
- ・政務活動費の交付に関する条例の一部改正
 「月額 1 万円交付 → 月額 3 万円を限度として交付」
- ・常任委員会行政視察 原則行わない
- ・一般質問
 全文通告後、再質問から一問一答 回数 3 回 時間 30 分
- ・議会役員等の任期（議長は 2 年 副議長その他は 1 年）
- ・政務活動費の領収書等の公開

継続中の協議事項

- ・議会報告会 協議継続中
- ・委員会における議案外質問及び発言の通告制 協議継続中
- ・議員におけるタブレットの活用について 今後協議予定



(2) 議会だより発行について

① 議会だよりの作成状況

議会事務局が原稿を作成し議会だより編集委員会で検討。

② 議会だよりをリニューアルした経緯

議会運営委員会が兵庫県三田市議会を行政視察した際、内容に工夫がなされ従来の堅いイメージでなかった。

③ 新しい議会だよりのコンセプト

文字数を少なくし、写真・イラストを増やし、フリーペーパーのようにして読みやすくする。

(3) 議会だよりのリニューアルについて

① 議会だよりの表紙・題字デザインについて

市内にある名古屋芸術大学と連携し、イラストの作成を依頼。
(作成委託料を支払う。)

② レイアウト方法

従来の「縦書き」から「横書き」に変更し、文字数を減らす。

③ 一般質問の掲載について

詳しい内容を市のホームページのインターネット録画映像配信及び会議録で公開しているため、要点のみ掲載する。

④ 新コーナーの連載をスタート

もっと議員を身近な存在に感じてもらうために「議員紹介コーナー」を新設する。

⑤ 議会だよりの愛称を募集

議会だより、広報、ホームページを通じて愛称を募集。

北名古屋市と議会（英語で council カウンシル）を組み合わせ、北名古屋市議会をもっと知ってもらいたい願いを込めて「きたしる」に決定した。

⑥ 編集時の留意点

- ・読者に不快感を与えずに「議会＝難しい」イメージの払拭。
- ・文字サイズはできるだけ大きくし、文字数を極力減らす。
- ・写真、イラスト、余白を効果的に配し窮屈な印象を払拭。
- ・難しい単語は避け、誰にでも分かりやすい文字表現を意識し、一般的でない単語を使用する場合は注釈を入れる。

⑦ リニューアル後の市民の意見や反応

- ・市当局職員から、名古屋芸術大学との連携での表紙を評価する声があった。
- ・市民からは「読みやすくなった」、「中身が薄くなった」、「マンガのようだ」等、好意的な意見と否定的な意見のどちらもが寄せられた。

⑧ リニューアル後の課題

- ・紙面デザインは業者委託せず、経験の少ない職員の編集のため読みやすい紙面構成づくりに苦労している。
- ・文字数を減らさなければならないが、限られた文字数の中で議会として伝えなければならないことをまとめるのが難しい。

	・市民目線に立ち、初めて読む人にも内容が的確に伝わる文章にすることが課題である。 ・ホームページには議会だよりの何倍もの情報が詰まっているので、関心のある人をいかにホームページに誘導するか課題である。
考 察 (まとめ:今後の活動に活かせると思われる事項等)	議会改革では様々な改革に取り組んでおり、議会基本条例を検討するにあたり、北名古屋市では全議員を構成員として議会改革推進協議会を設置して協議が進められていた。 広報紙については、北名古屋市においては明確なコンセプトとして、文字数を少なくし、写真・イラストを増やし、フリーペーパーのような体裁で市内施設各所に配置し市民が手に取ってもらえる工夫がされていた。 表紙のデザインを依頼する名古屋芸術大学には、作成にあたり事前にデザインの1年間のコンセプトを伝えていた。 大幅な議会だよりのリニューアルを行ったが、賛否についての意見は事務局で想像していたよりも少なかったそうである。 今後も上田市議会だよりが市民に多く見ていただく研究を重ね、議会の活動を深く理解していただいて、市民に開かれた議会となるように議会だよりの研究を重ねなくてはならないと実感し報告いたします。 

※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと